

加藤医院軽井沢山荘



設計期間(実行/契約)	2007/02/13～2007/06/26 / 2007/02/13～2007/06/26
監理期間(実行/契約)	2007/06/27～2008/03/18 / 2007/06/27～2008/03/18
着手日/引渡日	2007/06/27 / 2008/03/18
設計・監理メンバー	ISD/石橋・菊地 BF/中野・林
施主/担当	医療法人社団加藤産婦人科医院 理事長 加藤寛彦
工事内容	新築工事
確認申請等	
確認申請期間 / 確認番号	2007/4/24～2007/6/1 / 19佐地建第193-63号
審査機関	佐久地方事務所
計画変更	なし
中間検査日	なし
完了検査日/消防検査日	2007/3/6 / 消防検査なし
施設概要	
施設名称	加藤医院軽井沢山荘
施設用途	別荘
地名・地番	長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢1321番6
敷地面積	693.88㎡
用途地区/許容建蔽/許容容積	第一種低層住居地域/20%/20%
防火指定/日影規制	指定なし/10m以上 5-3h 測定面GL+1.5m
建築面積/建蔽率	124.221㎡/17.85%
延床面積	139.04㎡
容積対象延床面積/容積率	139.04㎡/19.91%
規模・構造	RC造＋木造 地下なし地上2階建て
最高高さ/軒高さ	7.60m/7.183m
(建築)	
外部仕上	唐松羽目板＋キシラデコール塗装
	コンクリート打放シ
内部仕上	ペンキ用壁紙＋漆喰調塗料
	杉板＋植物性木材保護着色材
工事請負業者/担当者	
建築	有限会社 塩川建築工房/塩川
空調/給排水設備	有限会社 松岡工業/松岡
行事	
	2007/6/27 契約・着工 11/8上棟式
	2008/2/29 竣工 3/18引き渡し
下請業者/メーカー	
	システムキッチン 松下電工株式会社
	ユニットバス ニッコー株式会社
	機械警備 株式会社 ALSOK

< 構造形式と空間構成 >

- 敷地は、軽井沢の中でも特に湿度の高い地域に位置している。快適な室内環境と建物の耐久性向上のために、1階をRC造、2階を木造とした。



道路に面する北側ファサード

建物の南側に、2層分の高さを持つ大きなリビングを設けた。
1階部分の壁はコンクリート打放し、2階部分の壁と天井は杉板目透し貼による仕上げとした。また、杉板特有の赤身の粗野な表情を和らげるために、薄いグレーの塗装を施した。

外壁は全て、唐松横羽目板によって仕上げたため、コンクリートは外部には露出していない。また、セパレータを利用した外断熱工法を採用した。

外壁：t=15 唐松横羽目
縦胴縁(通気層) 25×45 @450
横胴縁 45×55 @450
t=50 断熱材



リビング壁面

南側の雑木林を眺めるための大きな嵌殺し窓。また、通気用の内倒し開口を下部に設けた。

屋根：t=0.4 垂鉛メッキステンレス 立てハゼ葺き

内壁・天井：t=15 杉板 目透し貼

内壁・階段：コンクリート打放し

床：t=20 スウェーデンレッドパイン 無垢20-リング
t=12 温水式床暖房

▼最高高さ 7600

▼最高軒高さ 7180

一般の住宅では、階段や廊下は狭く暗くなりがちである。ここでは、山荘らしい明るく開放的な空間にするために、階段はリビングの壁面に設け、廊下と吹き抜けは一続きの空間とした。

寝室は北側の前面道路に面している。寝室のプライバシーを守るために、2階北側の壁面全体を無垢の木製ルーバーで覆った。

建物全体のボリューム感を抑えるために、1階と2階のボリュームをずらした。特に北側では、2階部分のボリュームをせり出させることで、軽快な印象のファサード構成とした。

木造
RC造

断面図
S = 1 : 50

給湯用と暖房用の2台の石油FF式ボイラーは、地下ピットに収めた。

<3つのファサード要素>

■ ファサードは3つの要素（ルーバー・羽目板・打放し）によって構成した。

ルーバー

建物の北側は車道に接している。2階の寝室と浴室のプライバシーを確保するために、壁面全体を米松の無垢材によるルーバーで覆った。
外部からの視線は遮りつつ内部からは緑が眺められるよう、また木製の受け材で支えられる荷重となるよう、フィンの部材寸法とピッチを検討した。



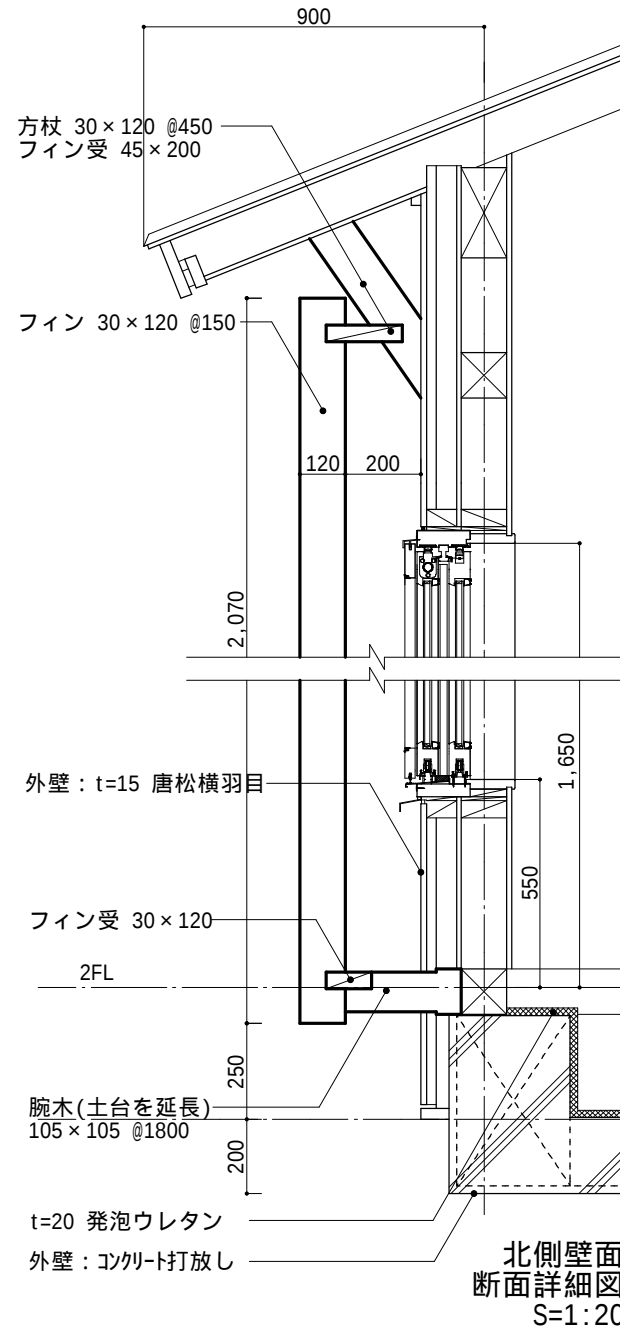
前面道路から見る

コンクリート打放し

独立柱とスラブのみコンクリート打放し仕上げとした。
スラブ部分は断熱が必要であったため、スラブの上端に発泡ウレタンを吹き付けた。



発泡ウレタン施工中の様子



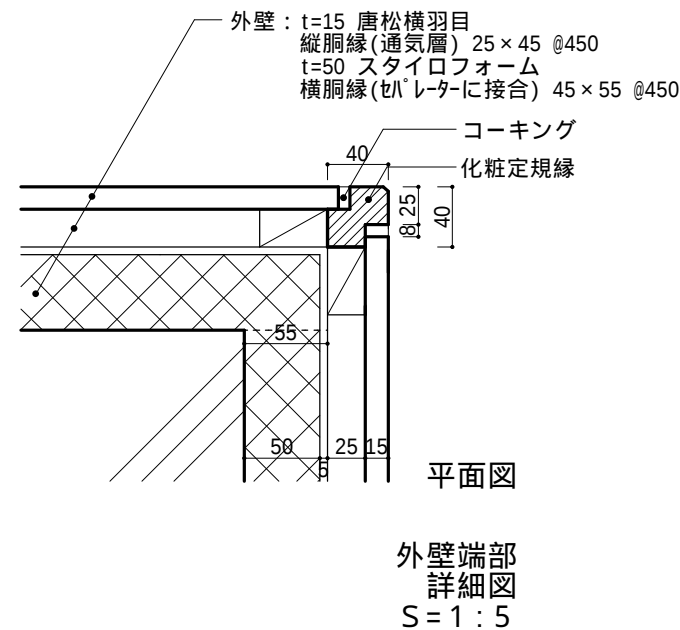
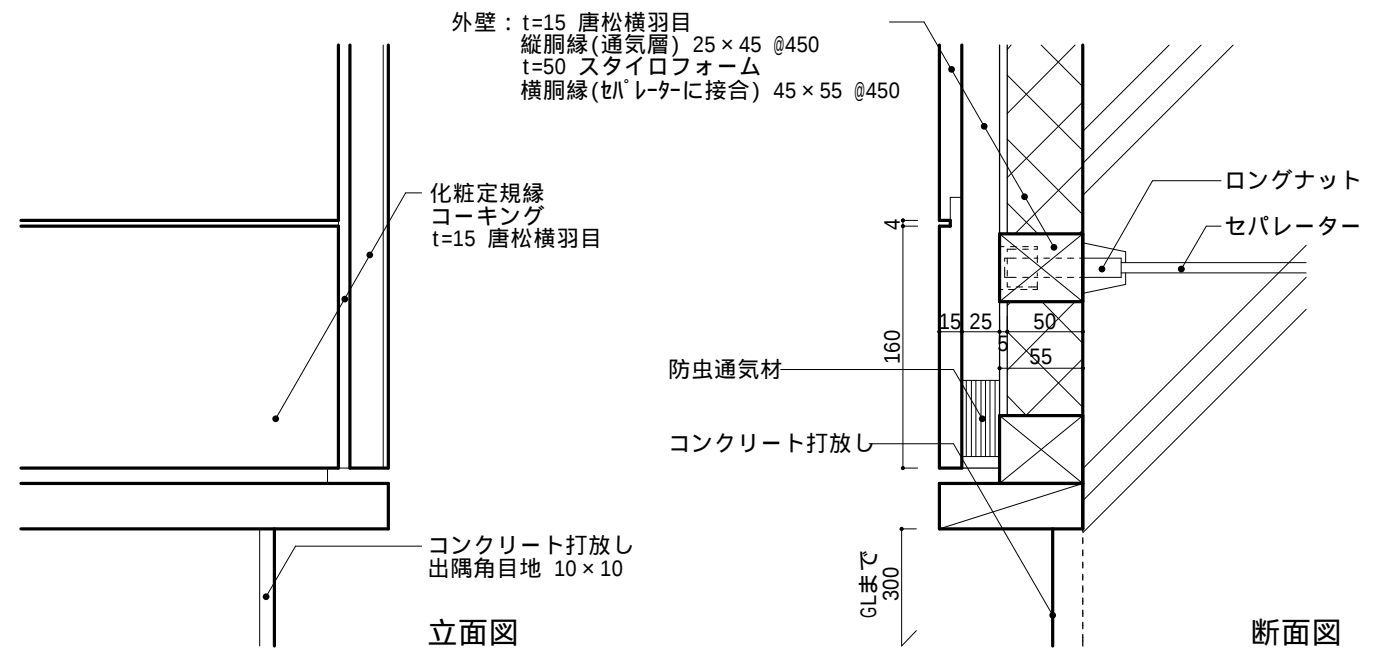
羽目板

躯体を傷付けないために、胴縁はセパレーターをロングナットで延長しボルトで固定した。

出隅部分では、凹凸の少ないシンプルな納まりとするために、化粧定規縁に羽目板を突き付けとした。



断熱材施工中の様子



テラスとライトコート

自然を直接肌で感じながら寛ぐことのできる半屋外の空間を各階に設けている。

また半屋外の空間は、周辺建物や道路からの緩衝帯としても機能しており、リビングやダイニング、浴室には大きな開口部を設けた。

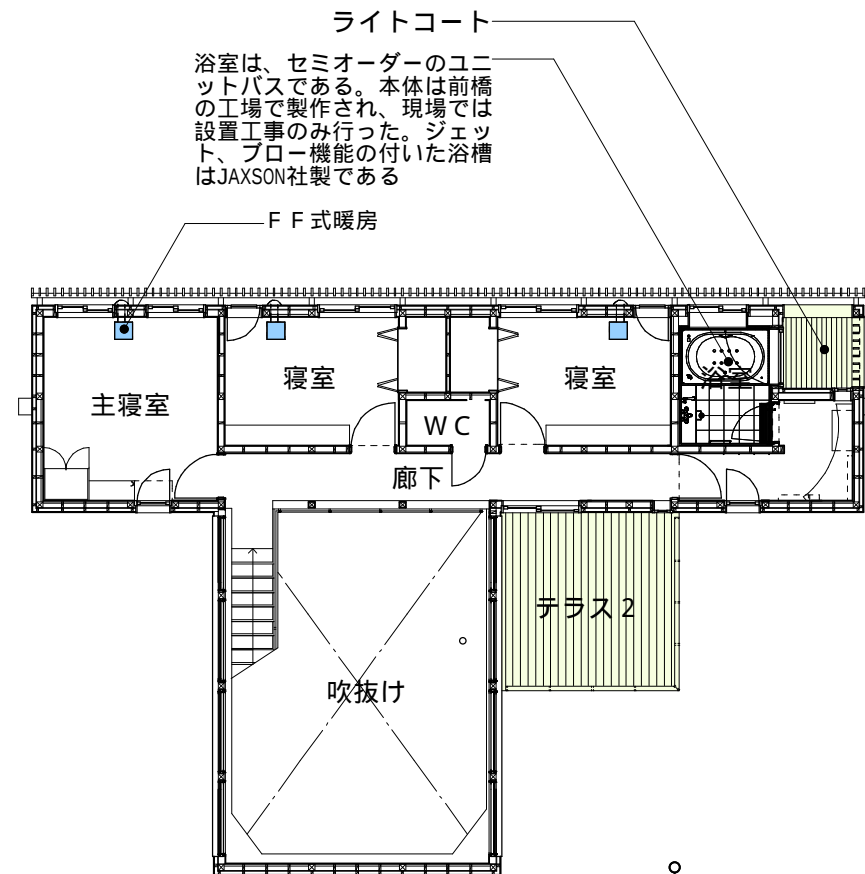
- ・テラス ——— テラスとダイニングとの間には折戸、リビングとの間には引違い窓（ヘーベシーベ）を設けた。いずれも幅2,800mm程度の大きな窓である。
- ・ピロティー ——— 玄関や勝手口に面することで、ポーチやバックヤードとしても使えるように計画した。
- ・ライトコート ——— ライトコートと浴室との間には、ドレーキップ窓(下縁を固定した内倒し状態にもできる片開き窓)を設けた。



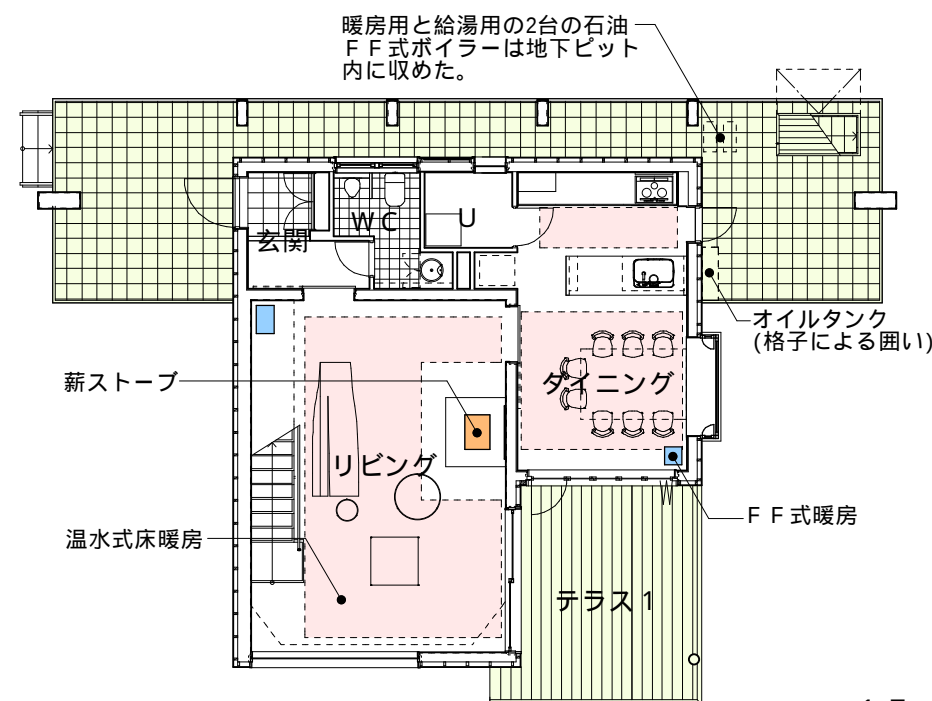
大屋根の下にひな壇状に設けられたテラス1と2



ピロティーと玄関



2 F



1 F

平面図
S=1:150

暖房設備

軽井沢の冬の厳しい寒さの中でも、快適な生活が送られるよう十分な暖房設備を設置した。暖房設備の種類は、温水式床暖房、FF式暖房、密閉式薪ストーブの3種類である。



暖気が上昇する吹抜け



オイルタンクは木製格子で覆った



密閉式薪ストーブ

開口部

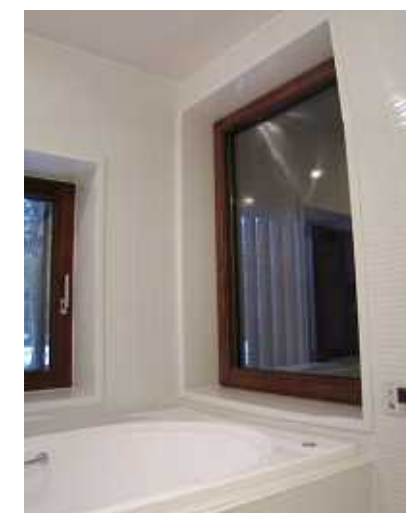
建具はすべて断熱性能の高い木製とし、さらにペアガラスを採用した。嵌め殺し、ヘーベシーベ、ドレーキップを適所に設けた。



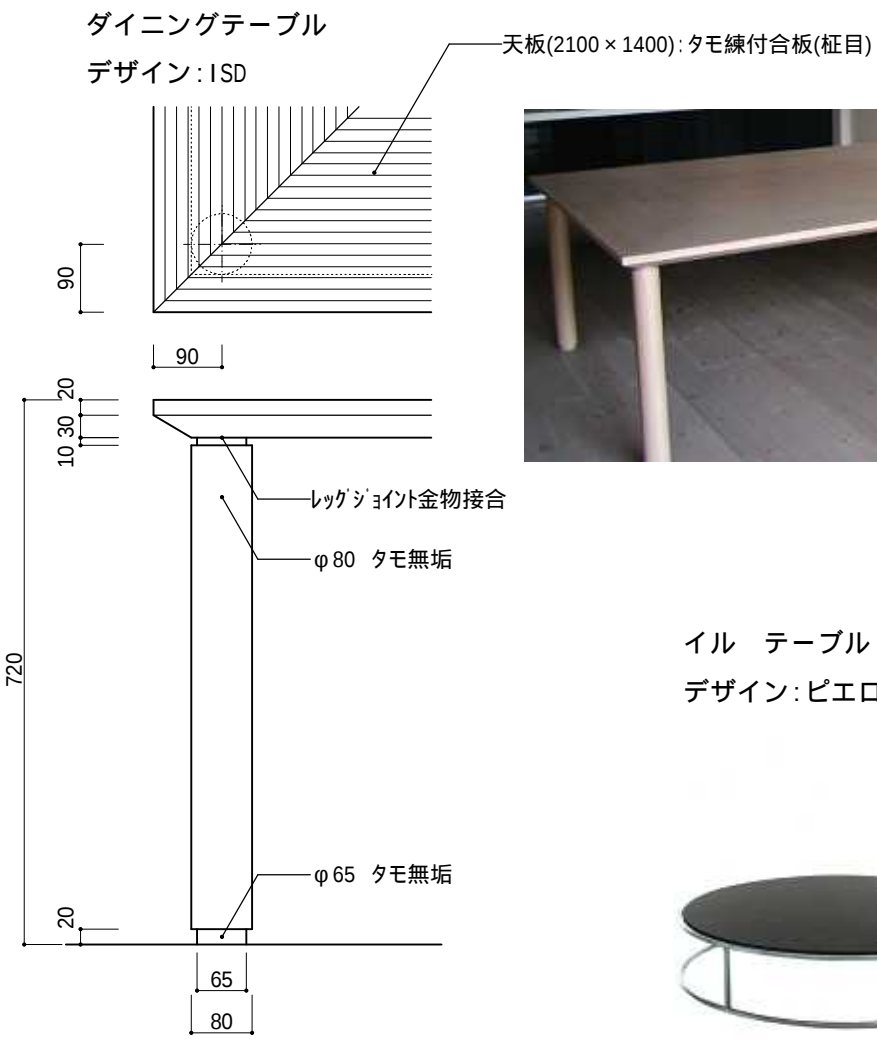
リビングの嵌め殺し窓 下部は通気用開口



ダイニングの折れ戸を開け放った状態



浴室のドレーキップ窓



イル テーブル
デザイン: ピエロ・リッソーニ



トムバックチェア
デザイン: ロン・アラッド



ヨーテボリ, 1
デザイン: エリック・グンナール・アスプルンド



アスベン
デザイン: ジャン・マリー・マッソー



イル オットマン
デザイン: ピエロ・リッソーニ

